

まるせっぷクリニック便り

JA 北海道厚生連
まるせっぷ厚生クリニック
TEL47-3131 FAX47-3134

北海道厚生連イメージキャラクター
コウセイくん



No. 10

マダニにご注意！

暖かくなってきましたね！アウトドアシーズンになり、外出が楽しい季節になりますが、紫外線、暑さ、虫…。この時期ならではの悩みも出現します。マダニもそのひとつ。今回はマダニについてまとめてみました！

マダニって
どんなダニ？

マダニは種類によりますが、体長3~8ミリで、背面は固い外皮に覆われています。草むらなどに生息し人や動物の血を吸って生きており、吸血後は10~20ミリにもなります。ぜんそくなどのアレルギーを引き起こす家庭内に生息するダニは、0.5ミリ以下の小さな種類で吸血もしませんが、マダニは体表につくと皮膚を切り裂き、歯を刺し入れて吸血し、1~2週間にわたって寄生します。その際に、さまざまな感染症を媒介する可能性があるのです。



マダニが潜む場所は？

マダニは公園や河川敷、山道など、草むらがあるところならどこにでも潜んでいます。気が付かないうちに、衣類や肌に付着していることがあります。キャンプや山登りに行かなければ大丈夫と思っていませんか？実は都心の公園や河川敷でも普通に生息しています。3月頃から被害が出はじめ、10~11月ぐらいまで盛んに活動します。公園で子どもを遊ばせているときや、ペットの散歩をしているときに犬や自分自身が吸血されることも…。

お散歩から帰宅した際は、玄関に入る前にペットや洋服をチェックして、家の中へ持ち込まないように心がけましょう。猫がお出かけから帰ってきたときもチェックしてあげてください。

噛まれたらどうなるの？



マダニに咬まれて大変なのは、痛みよりもむしろ、日本紅斑熱やライム病、「SFTS(重症熱性血小板減少症候群)」などの感染症を引き起こす可能性があること。

SFTS ウイルスを持ったマダニに咬まれた場合、潜伏期間は6日~2週間程度。発症した場合の主な症状として挙げられるのは、38度以上の発熱、嘔吐、下痢、食欲低下などです。現時点では有効な薬剤やワクチンがなく、致死率は6~30%とされています。



マダニから身を守ろう！

ダニに咬まれないポイント

- 肌の露出を少なくする
 - ・長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する
 - ・シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる
 - ・帽子・手袋を着用し、首にタオルを巻くなど
 - ・足を完全に覆う靴を履く(サンダルなどは避ける)
- 明るい色の服を着る
マダニを目視で確認しやすくなります
- 虫よけ剤を使用する
- マダニを持ち込まない



帰宅時には上着や作業着をチェックし、家の中にマダニを持ち込まないよう気をつけましょう。帰宅後は、着替えや入浴時などに体をチェックし、できるだけ早く見つけることが重要です。脇の下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部などにつきやすいので、とくに注意してみてください。マダニは、ペットに付着することもありますので、同様の注意が必要です。

もしも刺されてしまったら・・・

マダニ類の多くは、ヒトや動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間(数日から、長いものは10日間以上)吸血しますが、咬まれたことに気がつかない場合も多いと言われています。吸血中のマダニに気が付いた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関(皮膚科)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

みんなのギャラリー



鯉のぼりの置物がやってきました！
みんなのギャラリー(旧薬局カウンター)
に展示しています！
是非ご覧ください♪

